

## JET からの手紙

## コロナ禍における国際交流

愛媛県新居浜市市民環境部地域コミュニティ課

Noor Farahnaz Abu Mansor (ヌル・ファラナス・アブ・マンズル)

2020年12月、世界をひっくり返した新型コロナウイルス感染症の影響で「台無し」になったこの1年も終わろうとしています。皆様は「2020」という年を思い出して、何を感じるのでしょうか。たくさんの命が奪われた悲しみ、ソーシャル・ディスタンスや隔離生活から感じた孤独、さまざまなビッグイベントがキャンセルや延期になった絶望。どれも悪いことばかりなのですが、私はこの1年を振り返ってみると、不思議なことに、希望というものを感じました。

## パンデミックまでの半年

瀬戸内海に臨んだ四国の中北部、英語で「ラブリー・プリンセス」を意味する愛媛県の東予地方に位置する新居浜市。四国三大祭りの1つに数えられる「新居浜太鼓祭り」、通称「男祭り」で有名なこのまちに着任したのは昨年、夏のことでした。南国のマレーシアから来た私でさえ、耐えられない日本の8月の暑さはとても「わや(ひどい)」でしたが、行く先々で、愛媛の名の通り「ラブリー」な愛顔<sup>えがお</sup>で迎えてくださった地元の方々の温かさ



新居浜太鼓祭り

と優しさは、何より心に響きました。私は新居浜市で、初の国際交流員 (CIR) として働いています。

## 「人気」になるのがお仕事

私の CIR としての旅は、勢いよく始まりました。昨年11月、「新居浜市国際交流員来日記念講演会」にて、日本人が1番移住したい国として選ばれたマレーシアの魅力について講演を行いました。さらに、マレーシア代表バドミントンチームがオリンピックに向けての事前合宿のために来県した際には、通訳として務めさせていただきました。



マレーシア・バドミントンチームえひめキャンプ

また、ありがたいことに、初の CIR として着任したことがローカルのメディアに注目され、愛媛新聞をはじめ、「ここまち」や「Hoo-JA!」などという地域のフリーペーパーやマガジンなどにも掲載していただき、CIR とは何かについて紹介する機会を多くいただきました。これらの記事が「あいテレビ」(愛媛県の TBS 系列局) の営業部の方の目に留まったことで「ヒメラバ!」というテレビ番組に出演させていただきました。



「ヒメラバ！」のMCを務める「ひめころん」さんと一緒に

このように、さまざまな場で、多くの方々に見ていただきましたが、新居浜市に住むほとんどの人が、この地域に外国人が多くいることを知らないということがわかりました。総人口約12万人の新居浜市では現在、ベトナムに続き、中国、韓国、フィリピンなど、合計39の国から約1,400人にのぼる外国人が在住していますが、その数を伝えるといつも驚かれます。アジア系の方が多いのであまり目立たないからなのか、あるいは交流の機会が少ないからなのか、その理由は定かではありませんが、外国人の存在があまり知られていないことから、「多文化共生」が達成できていないということが確かです。

異文化理解を深めて、多文化共生社会を作っていくためにも、まずは住民の皆様へ外国人の存在に気付いてもらうことから始めなければいけないと思い、コミュニティと触れ合うことを増やし、活動範囲をプライベートにも広げるようになりました。

## 弓で心がつながる

着任してから半年、さまざまなプランを立てて「よし、行くぞ！」という時に、コロナが日本中に広がりました。企画していたイベントはすべてキャンセルになり、人との接触が少ない「Hello!NEW 新居浜 FM78.0」というラジオ番組に何回か出演させていただいたこと以外、ほとんどのお仕事がなくなりました。そんな絶望的な時期の中で、唯一コミュニティとのつながりを保てたのは、プライベートで始めた「弓道」を通してでした。

弓道は、「3密」を避けながらできるので、感染の心配もなくコロナ禍の中でも続けられました。先生や先輩方に引き方を教わりながら、自分のことやマレーシアに

ついても紹介することができるといい交流の場になると思って始めた弓道は、この不安の中での心の支えとなり、私にとってとても大事な居場所になりました。また、市や県の大会にも出るようになり、袴姿にヒジャブを被って日本の弓を引



弓道の稽古中

いている外国人が注目され、外国人の存在に気づいてもらう機会にもつながり、私なりの国際交流の大事なツールの1つにもなりました。

## コロナが気づかせてくれたこと

CIRとして着任する前に在マレーシア日本国大使館で4年半働いていた影響で、私が思い描いた「国際交流」は主に「国と国」や「G to G」のことばかりに集中していましたが、コロナにより人々の自由が奪われたことによって、逆に「人と人」のつながりの大切さに気付かされました。

これからは、その「人と人」、「心と心」の絆を大切に国際交流に励み、新居浜の方々と一緒に、この苦難を乗り越えていきたいと思います。

希望と祈りを込めて。

### プロフィール



**Noor Farahnaz Abu Mansor**  
(愛称：ファラ)

マレーシアのシャーアラム市出身。帝京大学で4年、一橋大学大学院で2年、合計6年間の留学期間を終え、在マレーシア日本国大使館で4年半勤務。その後、2019年8月から愛媛県新居浜市地域コミュニティ課にCIRとして着任。CIRとしての業務に日々励んでいる傍ら、弓道の「3級」の審査を受けるために現在稽古中。



←新居浜市国際交流員の活動を紹介するFacebookページのQRコード